

## 銅賞

教えてくれたたくさんのこと

横須賀市立馬堀中学校三年

南井 めい

私は今は空き屋となったちいちゃんの家の前を通ると、ときどき楽しかった小学三年生の時の事を思い出します。

ちいちゃんは私のひいおじいさんの妹です。私はみんながそう呼んでいたのちいちゃんと呼ぶようになりました。私は小学三年生になったころから、毎週水曜日の放課後遊びに行っていました。ちいちゃんはこの時八十四歳で週一回デイサービスに通っていました。デイサービスで教えてもらった折り紙を私に教えてくれました。ちいちゃんの折り紙はとてもきれいでした。また東京大空襲で浅草から逃げてきた時の体験を私に何度も話してくれました。手芸が得意だったので私にやり方を教えてくれました。私が来た時にはお茶とお菓子を出してくれました。ちいちゃんはとても優しく水曜日がとても楽しみでした。放課後の少しの時間だったけれど、今でも忘れられない思い出だと思います。

けれど長くは続きませんでした。ちいちゃんが胃がんで入院したからです。私もときどき見舞いに行きました。胃は摘出し、ちい

やんは退院しましたが、また一人暮らしができそうになかったの  
で、祖母の家で介護するようになりました。祖母は仕事で帰りが遅  
かったの、ちいちゃんの話し相手になればと思ひ私は水曜日に  
祖母の家に通うようになりました。ちいちゃんは頭はしつかりし  
ていたけれど生まれつき足が不自由だったので、トイレなどは介護  
が必要でした。祖母も仕事が忙しかったのもあつてちいちゃんの  
介護がだんだんと難しくなつていきました。身内で考えた結果、ち  
いちゃんが老人ホームに入所することになりました。ちいちゃんが  
老人ホームに入つてから私は家族と一緒に会いに行きました。ちい  
ちゃんは元気そうで私は安心しました。帰りぎわに私は「また来る  
ね」といいました。けれどちいちゃんが老人ホームに入つてから私  
が会いに行く回数が少なくなつていきました。しばらくたつてから  
会いに行った時、少しショックでした。私の名前が分からなかつた  
のです。言えは思ひ出してくれました。けれど会いに行くたびに私  
の事を忘れていきました。私もこの頃から部活が忙しくなり、祖母  
や母からちいちゃんの様子を聞くだけになりました。「最近ボケがひ  
どくなつてる」ときくようになった頃に一度会いに行きました。ち  
いちゃんは私の事を覚えていませんでした。仕方のない事だと分か

ってはいたけど、なぜ私は覚えているのにちいちゃんは覚えてないのか理解できませんでした。最近は何も行っていないけれど聞いた話だとティッシュを食べたり、皿をなめたり、隣の人のごはんを手で取ってしまうそうです。それを聞いた時、前のちいちゃんからは想像がつかないので驚きました。それと同時に汚いとかかわいそうと思う私がいきました。年とともにボケていくのは仕方のないことだと分かってはいるのにそう思ってしまう私がいきました。けれど母から、ちいちゃんが老人ホームに入った時周りにいる老人を見てああいう風にはボケたくないねと言っていたことをききました。

私はそれを聞いて少し考えました。ちいちゃんもボケたくてボケたんじやない事に気づきました。気づいてみれば当然の事だけど、高齢者をまともに見ていなければ気づけなかったと思います。

今、高齢者が増え続けています。そんな中で高齢者の虐待などの問題もおこっています。高齢者の外見や行動だけを見ると同じ人間に見えない事もあるのではないのでしょうか。私もそう思ってしまう事があります。まだ頭がしっかりしている私たちには高齢者の行動など理解できないからだと思います。でもボケてしまっても心は変わっていないと私は思います。ちいちゃんが私を見て誰だか分

からなかったとしても心の中に残っていてくれればそれでもいいと最近はどう思うようになりました。

ちいちゃんは私にたくさん事を教えてくれました。戦争の事や手芸、折り紙などたくさん教えてくれました。そして人が老いるという事はどういう事なのかをちいちゃんとの関わりの中で教えてくれたのだと私は思います。私は今まで高齢者の事を考えたことがありませんでした。しかし高齢者という存在はいずれなりうる姿なのでそれについて考えるべきだと思います。近々ちいちゃんの所へ行くかと思っています。今度は同じ人間として接したいです。そして多くの高齢者と話してみたいです。ちいちゃんからもらったたくさんのお話や教えてもらった事を忘れないように心にしまっておこうと思います。